

2024年3月10日 石尊稜

メンバー L 西野(会員外)、村中、岩田(記録)

クライミングウォールで指導いただいている西野さんに八ヶ岳石尊稜にお誘いいただいた。村中さんと岩田は、今シーズン冬季登攀を頑張っているのも一つステップアップを目指す山行となった。山行は厳しく、まだ暗い5:00から、暗くなった18:00まで12時間以上に及んだ。

・赤岳鉱泉から取り付きは、前日トレースを付けたパーティがおられ、ラッセルとはならなかったが、取り付き直前はなかなかの急登で雪も柔らかく、やや危険だった。

・1ピッチ目、ここが核心とのが、先行パーティがおり、待ち時間1時間以上。登る前に体が冷え、冷えた指で何とか登った。頑張っただけで登ったら、終了点で気づいたら手の指先が凍傷ぎみ(?)で痛くなった。(帰ってもピリピリしており、お湯で温めた)

・3ピッチ目からは雪稜+岩稜が続く。コンテで進むが、途中、やや危険度の高い岩稜帯があり、西野さんが先に登り、二人を確保してもらったところが二箇所ほどあり。

・上部岩稜取り付きで前に3パーティーあり渋滞。ここでも待ち時間が1時間以上あり。太陽が顔をだし耐えられたが、曇ると寒い。登りは少し難易度はあるが、ホールドはしっかりあり、大丈夫。余裕有りと言ってしまおう。

・最後のピッチは時間短縮のため、急な雪面をロープを繋いだまま岩田、村中が先に登る。ロープ一杯で傾斜がなだらかになり、終了。

ロープのみ収納し、すぐ上の稜線の一般道へ合流して終了。この時点で15:30、時間がかかった。

その後、地蔵尾根は慎重に降り、なだらかになってからは飛ばし気味に進み、美濃戸着。もう暗くなった。

【コースタイム】

美濃戸 4:45

赤岳鉱泉 6:30

取り付き 8:00

終了点 15:00

石尊峰 15:30

行者小屋 17:20

美濃戸 18:45

1 ピッチ目



コンテで進むが、危険箇所は確保してもらおう



中間のテラスで休憩



上部岩稜前で前に3パーティの渋滞

